

ら い 来ぶらり

図書館へ気軽にぶらりと来館していただきたいという思いで命名しました。

図書館を英語で「Library(ライブラリー)」といいます。

No. 126 3月号

2016年3月1日 発行
たつの市立図書館

龍野図書館 TEL(0791)62-0469

新宮図書館 TEL(0791)75-3332

揖保川図書館 TEL(0791)72-7666

御津図書館 TEL(079)322-1007

<http://www.city.tatsuno.lg.jp/library/index.html>



携帯専用サイトへは、
左のQRコードから
(<https://www.lib015.nexs-service.jp/tatsuno-city/mobile/index.do>)

読書と私 No.117

「ラジオと図書館」

神岡町 田口 秀幸

私は姫路にあるラジオ局、FMゲンキで「手柄山ピースフルメッセージ」という番組のパーソナリティーをしている。ふとしたご縁から手柄山慰霊塔が伝えるもの、教えるものを少しでも多くの人に知ってほしいと思い、56歳の時にこの番組を始めた。毎月1回 第2日曜日、午後4時からの1時間番組だ。早いもので今年4月で9年目を迎える。

私はこれまで会社経営に専念してきたため、図書館とはほとんど縁がなかったが、放送に関わるようになってから図書館を訪れることが多くなった。

昨年の1月に今治空襲の取材に行った時、今治市の戦災を記録する会の会長さんから空襲の様子、そして「戦災を後世に残す取り組み」を伺ったお話の中で、「今治が生んだ矢内原忠雄という方をご存じですか」と尋ねられたが、不勉強で知らなかった。そこで、帰ってすぐに図書館に行けばなんとかなる！という思いから問い合わせをした。暫くして「あります」との係の方の声。早速借りて帰って本に目を通した。矢内原先生は昭和初期の軍国の真只中で「国家が目的とすべき理想は正義であり、正義とは弱者の権利を強者の侵害から守ることである。国家が正義に背反した時は国民の中から批判が出てこなければならない」と講義をされた。また「日本の国に大事なものがあるように、世界のそれぞれの国にも大事なものがあることを忘れてはならない」とも話されている。こうした講義が不穏な言動として問題となり、昭和12年に東大を追われたが、昭和26年に戦後2人目の東大総長に選出されている。平和を願う一人として、矢内原先生の言葉は心に残るものとなった。こうして借りた本からは知りたいたくさんの情報を得ることができ、私にとって図書館は身近な存在となっている。

※『読書と私』は図書館の利用者に執筆していただいています。

『白い大陸への挑戦』 神沼 克伊 著 現代書館



日本が国際学術連合会議で南極観測を表明し、昭和基地での観測を始めてから2017年で60年を迎える。

著者は、1966年の第8次観測隊に参加し、昭和基地で2回の越冬生活をしている。滞在中は

専門の地震観測のほか、地磁気・潮汐・オーロラ観測を行った。その中でも昭和基地は「オーロラ楕円帯」のほぼ直下であり、オーロラ観測には非常に良い位置にあったため、3月から10月までは一番力を入れた。当時、「君が日本で1番オーロラの写真を撮った人だ」と言われるくらい、写真を撮り続けた。専門の地震観測においては、「南極には火山性地震はあるが構造性地震は起こらない」という定説を覆し、南極でも自然地震が発生していることを発見した。

近代化された基地内での生活は、水事情の悪

さから節水による入浴制限はあるものの、基本的には日本での生活と同じで、食事はシェフが1年間の食生活を考えながら準備する。また、娯楽設備も充実していて、映画やテレビなどの映像娯楽の他にも麻雀・囲碁などを愛好家たちが楽しんだり、バーでお酒を飲むこともできた。

現在、南極からテレビ会議システムを利用してライブで基地の映像が日本の学校に届けられる「南極授業」が行われたり、現場の教師が観測隊に同行し、野外活動にも参加して極地に興味を持つ生徒や学生を増やそうとしている。しかし、自然が厳しく、危険が伴い、仕事はきついというのが一般的な評価でしかなく、著者は「南極は厳しい自然環境だからこそ、そこに身を置けば得るものも大きい。だから若い人に門戸を開放すべき」と主張する。

日本からは遠く離れた未知の世界である南極だが、将来もっと身近で魅力的な存在になるのではないだろうか、期待を膨らませてくれる一冊である。 (龍野図書館 三葉)

トピックス

イベントのお知らせ

※申込、問い合わせは各図書館まで

「カワセミと新宮の自然」写真展・講演会

栗栖川において、カワセミの写真を撮り続けてこられた清水守氏の作品の展示を行い、カワセミの美しさや生態、地元の自然の豊かさについてお話を伺います。

◎写真展：3月2日(水)～30日(水) 新宮図書館 入口

◎講演会：清水 守氏

【日時】3月21日(月・振休)
午後2時～3時

【場所】新宮図書館 (入口)

【定員】40名 (要申込・先着順)

【申込】新宮図書館 (電話可)



「アキノイサムの世界」原画展・講演会

絵本『たこなんかじゃないよ』の原画展を開催!

◎原画展：3月2日(水)～15日(火)

揖保川図書館 フロア

◎講演会：秋野 和子氏

【日時】3月13日(日) 午後2時～3時

【場所】アクアホール (2階 第3会議室)

【定員】25名 (要申込・先着順)

【申込】揖保川図書館 (電話可)

特別企画

「あなたがたこなら何に変身？」

あなたの絵が絵葉書になる!

絵本の中では珊瑚や海藻に変身したたこさん。
あなたなら何に変身? 絵を描こう!

【応募資格】4歳以上 (大人も可)

【作品受付締切】3月15日(火) 揖保川図書館まで

【作品展示】3月27日(日)まで揖保川図書館内にて

※用紙(B5)は揖保川図書館にて配布します。

※抽選で30名の方の絵が絵葉書になります。

龍野さくら祭関連事業

世界に限定33部の貴重本

「Michelangelo : La Dotta Mano」公開

【日時】4月2日(土)・3日(日) 午前11時～午後3時

【場所】龍野図書館 (2階 展示室)

おすすめする子どもの本・117

『おかあさんだいすき』 マージョリー・フラック ぶん・え 岩波書店

今日はお母さんの誕生日です。そこでだに一は、お母さんへの贈りものを探しに出かけました。すると、めんどりに会いました。だに一が「おかあさんのたんじょう日に、なにか あげるもの ないかしら」と尋ねると、めんどりは「それじゃ、わたしが うみたてのたまごを ひとつ あげましょう」と言いました。けれども卵はもう家にあったので、だに一は他の物を探しに行きました。

次に、がちょう、やぎ、ひつじ、めうしに会いました。お母さんへの贈りものに、がちょうは枕にする羽を、やぎはチーズを作る乳を、ひつじは毛布にする毛を、めうしは乳をあげると言いました。でも、どれももうある物ばかりだったので、今度は森に住むくまの所へ行きました。くまは何も

あげる物がありませんでしたが、「いいことを おしえてあげよう」と言い、だに一を抱きしめると、そっと、素敵な贈りものを教えてくれました。

だに一は家に帰り、お母さんにぎゅっと抱きついて頬ずりしました。それがくまに教えてもらった一番いい贈りものだったからです。

贈りものを探して駆け回るだに一の姿が、黄色を基調とした柔らかな色合いで描かれ、お母さん大好き、という気持ちが温かさと共によく伝わります。

読んであげるなら4歳くらいから。

(御津図書館 内田)

『あらしの前』 ドラ・ド・ヨング 作 吉野 源三郎 訳 岩波書店

あらしの前

第2次世界大戦直前ナチスドイツに占領される前のオランダ、片田舎に住むファン・オルト一家の物語。一家の父親は4代続く村医者、母親は家事をこなしながら父親の仕事を手助けつつ、薬局も営んでいます。

子どもは18歳の長女ミーブを筆頭に3男3女の6人きょうだいです。父親は、次男のヤンに将来自分を継がせ、医者にしようと思っていました。しかし勉強が好きでないヤンは学校の成績も悪く、校長先生に進学をあきらめ補習学校に転校してはどうかと言われてしまいます。今の自分の状況を両親に言うことができないまま鬱々とした日々を送っていました。そんなある日ヤンは患者を診察に行く父親について行くこ

とになりました。そこで、熱意を持って患者に接する父親の態度を見て、「自分もどうしても医者になりたい」と強く思うようになります。患者をさらに大きな病院へと運んでいった先でユダヤ人の亡命者ヴェルネル少年と出会い、一家は彼を引き取ることになります。

オルト一家の子ども達は、それぞれ毎日をのびのびと過ごしていましたが、田舎町にも戦争の影が忍び寄ってきます。ドイツ軍がオランダに侵入してきたのです。何十もの飛行機が飛び、何千もの落下傘部隊が着陸するようになります。親しい人が次々と傷ついていく中、家族を前に母親が言った「自分を守りましょう、武器を使ってではなく正しいことを信じる、自分たちの信念で・・・」という言葉が印象に残ります。

続編は戦後のフォン一家を描いた『あらしのあと』。小学高学年から。

(龍野図書館 河部)



各館の行事予定

※詳細は各館へお問い合わせください。

館名	行事	対象(上段)・時間(下段)	3月の予定
龍野図書館 TEL(0791) 62-0469	●えほんのじかん	1～3歳児、保護者 第2・第3土曜日(11時～11時20分)	12日・19日 『はなをくんくん』他
	子どもの本を読む会	一般 第2木曜日(10時～11時30分)	10日 『ムギと王さま』 エリナー・ファージョン 著
	読書会	一般 第2金曜日(10時～11時30分)	11日 『雪国』 川端 康成 著
新宮図書館 TEL(0791) 75-3332	●えほんのじかん	2～4歳児、保護者 第2・4月曜日・第4日曜日 (11時～11時20分)	14日・27日・28日 『ココさんのおみせ』他
	■おはなしのじかん	5歳児～ 毎週土曜日(10時15分～10時45分)	5日・12日・19日・26日 「ちゅーりっぷほいくえん」他
揖保川図書館 TEL(0791) 72-7666	●えほんのじかん	3～5歳児、保護者 第2・第3土曜日(10時30分～10時50分)	12日・19日 『もりのなか』他
	■おはなしのじかん	小学生以上 第2・第3土曜日(11時～11時30分)	12日・19日 「世界でいちばんきれいな声」他
	読書会	一般 第3金曜日(10時～12時)	18日 『金閣寺』 三島 由紀夫 著
御津図書館 TEL(079) 322-1007	●えほんのじかん	1歳～4歳児、保護者 第3日曜日(11時～11時20分)	20日 『やさいのおなか』他
		5歳児～ 第3日曜日(11時30分～11時50分)	20日 『おかあさんだいすき』他
	読書会	一般 第3水曜日(13時30分～15時30分)	16日 『四つの嘘』 大石 静 著
	古文書を読む会	一般 第1土曜日(13時30分～15時30分)	5日 古文書の解説